

畜産試験場だより

酪農試験場

酪農試験場の性格と新体制

この度酪農は時代に即応し、如何にあるべきかを検討した結果、次のような認識と体制を考えています。

性 格

試験場的任務＋種畜場的業務＝応用試験場的性格。

試験テーマのねらい

実情に即し実地応用に移し易いものを主とする

関連領域の知識

酪農専攻の立場だが関連のある他の家畜は勿論営農のアウトラインに対しても感心をもつ。

経営に対する知見

畜産の専門分野に止まらず営農の実態にふれ、その問題点を追究して合理化に参画すること。

ブリーディングセンターとしての任務

人工授精の近代科学を応用し、優秀な種畜をもって改良と増殖に寄与するのは勿論、万一伝染病発生等の非常時に備え、凍結精液の利用を講ずること。概ね以上の趣旨考え方ですが、これを更らに要約すれば試験調査は場内の作業にこだわらないで、場外活動を心掛け、特に農業経営の進歩に参加したいという意欲をもっています。

試験調査の重点としては

- 1、改良増殖
後代検定、凍結精液の応用試験、経済能力検定
- 2、受胎率向上に関するもの
受胎率の実情調査
低受胎牛の諸要因の検討と対策
- 3、生産基盤強化
飼料作物、牧草類の耕種基準の作制
自給飼料の増産と作付体系の検討
- 4、経営に関するもの

酪農経営の実態調査

ホルスタイン・ジャージーの経済性検討

5、飼養管理に関するもの

飼養標準設定についての試験

各種自給飼料の飼養試験

このような方針からして次のような組織に致しております。

本 場

庶務部（庶務・合計・分場事務係）

業務部（飼養・繁殖衛生・飼料作物・経営各研究室及び試験室・指導室・図書室）

蒜山分譲（繁殖衛生・飼料作物・指導講習）

御挨拶と御詫びと

酪農試験場 加本 一久

宵越しのビールのように、気が抜けた頃になって、御挨拶では頂けない話で、失礼と思しますので、御詫び状を付け加えました。

私はこのたび、千屋の谷を下って、柄にもない御役目を仰せつかり、目下、汗だくの見習中でありませう。

2年程前、私が千屋に赴任した時、或る人が「あんたも鮎の川登りの部類だね」と論えられ、意味が分からないので訳を聞くと、それは小学校の校長先生になるには南部都市近郊では仲々昇格が難しいので、奥の山間地に登ってそのポストを得、それから次第に平地の学校に転任するのだと云う。それが恰度、鮎が川を登って産卵してから川を下るのに似ているという訳です。

私もそう云えば、卵を産みに千屋に行っとなったこととなりますが、マゴマゴしてるうちに、卵も産み

岡山畜産便り 1960.08

損ねて、アタフタと川を下ったみたいな格好になりました。

今にして想えば、それでもあの山の中も、私には「思い出のアルバム」となり亦「懐かしのメロデー」ともなりました。又それだけに刺戟の少ない日を送っていたようでもあります。

元来あまり精密でない私のアンテナは、その環境に馴れて愈々感度が鈍って間延びしてしまいました。

それに引きかえ、この酪農のふんいきはチョット・デリカシーでその上テンポが早い。よく部外の皆様は「乳の蜜の流れる郷」とかを想像して、ユートピアを御連想預くがドウシテドウシテ現実はそのなりにドリーミーなものではないようです。

そうした気持から、私も心身とも、懸命に牛や餌に取組み、少しでも早くこの冷厳なる酪農界に棹さ

してみたいと念じています。

その心掛けで、実はこの間恰度日曜日の朝でした。早くから子供をたたき起して「お父ちゃんの乳しぼりを見せてやる！」と計り、汗だくになって乳しぼりの最中、不覚にも腰掛が外れて尻もちをついてしまいました。その格好をそばで見ていた1年坊主めが見のがすはずがありません。「やった！やった！」と手をたたいて喜んでやがるんです。全くおやじの腕前の程がバレテ台無しになりました。

乳しぼりと云えば子供の印象にこの不態が一生涯想い出されるかと思うと、自信のないことを徒らに子供などにヒケラカスべからずと悟りました。

只今のところ、大体かくの如き状況であります。暫らくの間、私の未熟さを御とがめにならないで、長い目で御支援の程願ひ上げます。

以上御詫び旁々御挨拶まで。(35、7、9)